

# V 文化芸術振興の取り組みの方向性

## 1 文化芸術振興の取り組みの方向性

区民、文化芸術団体、学校、企業、財団、新宿区等、文化芸術に携わるそれぞれの担い手が個性を十分に発揮して、自由に活発な文化芸術活動を行う枠組みをつくとともに、都市としての歴史的蓄積やまちの持つ多様性を活かし、新宿が培ってきた文化をさらに成熟させることにより、新宿のまち全体の魅力を高めていくためには、次の取り組みを進めていくことが大切です。

### ◇まちの記憶を継ぐ・活かす

文化や芸術とは、まちの歴史を担い、未来につなげていくものです。新宿のまちには新宿のまちとしての歴史があり、活動した人々の思い出が残っています。新宿の持つ歴史を未来に継承する視点や新宿の地域性を大切にしつつ、次の世代に継承していく取り組みを進めていくことが大切です。

### ◇まちへの愛着と誇りを育てる

都市としての歴史的蓄積をしっかりと掘り起こし、さらに成熟させることが、区民が住むことを誇りに思い、来街者が繰り返し訪れたいような新宿のまちの創造につながります。そのためにも、まちへの愛着と誇りを育てていく取り組みを進めていくことが大切です。

### ◇子どもの生きる力と豊かな心を育む

誰もが文化芸術にふれ、享受できる環境を整えることは大切です。とりわけ、子どもの生きる力と豊かな心を育む上で、文化芸術に期待する役割は大きいと言えます。また、文化芸術は一過性のものではなく、次の世代につなげていくものです。そうした視点からも、その担い手である子どもたちを育てていく取り組みを進めていくことが大切です。

### ◇新宿からの文化芸術を創る・発信する

宿場、盛り場としての歴史、さらに近現代においても常に時代の先端を走り、文化を創造し、発信してきたことが新宿のまちの特色です。特に近現代の文芸に関しては、大正期に芽が出て、新宿のまちに多くの文学者や芸術家が集まり、新宿の文化を創ってきました。これからも文化芸術の発信基地として、新宿からの文化芸術を創造し、発信していく取り組みを進めていくことが大切です。

### ◇民（みん）の力でつくられたまちを支える

新宿のまちには、芸術家やそれを支える事業者等、様々な人々が集まり、民（みん）の力で、文化芸術が培われてきたまちです。しかし、ここ数年、伝統あるホールが次々に閉鎖され、文化芸術団体が活動の拠点を区外に移すなどの状況も生まれています。今こそ、民（みん）の力でつくられたまちを支える取り組みを進めていくことが大切です。

### ◇新宿のまちに人を惹きつける

新宿のまちの強みはディスプレイ効果（※）です。新宿駅の一日の平均乗降客数は約352万人。この数字は日本三景の一つ宮島の年間観光客数を上回ります。文化芸術について、特定の領域に関心を持つ人が新宿のまちを訪れるだけでも、新宿のまちの賑わいは増し、さらに活性化されます。新宿のまちに人を惹きつける取り組みを進めていくことが大切です。

（※）ディスプレイ効果……日々多くの人が訪れる新宿のまちでは、多くの人にアピールすることが可能です。新宿のまちの持つ集客性から生じるまちの賑わいや活性化を「ディスプレイ効果」としています。

### ◇「新宿力」のふたをあける（発揮する）

新宿のまちには、文化芸術や経済活動などを背景として、これまで新宿のまちが蓄積し、培ってきた豊かな地域の力があります。また、多様性・先端性を受容する都市としての懐の深さを背景とした、新宿のまちに集まる多種多様な人の持つ無限に広がるエネルギーもあります。こうし

た「新宿力」のふたをあけ、さらに発揮させる取り組みを進めていくことが大切です。

◇多様な人と人をつなげる

文化芸術は、心に安らぎと豊かさを与えてくれ、住む人、働く人、遊びに来る人をつないでくれます。また、異なる国の人々、子どもとおとな、未来と過去などをつなぐことができるのも文化芸術の力です。文化芸術を振興していくためには、文化芸術に関わる多くの主体のつながりが欠かせません。このような多様な人と人をつなげる取り組みを進めていくことが大切です。

## 2 「まちの記憶を継ぐ・活かす」、「まちへの愛着と誇りを育てる」

文化芸術には、過去の遺産や、人と人とのつながりを、現在、そして未来につなぐ力があります。新宿のまちには、古代から近現代まで育まれてきた生活・文化・産業等、各分野に及ぶ豊富な「まちの記憶」・「土地の記憶」があります。

こうした都市としての歴史的蓄積をしっかりと掘り起こし、次の世代に継承し、新宿の持つ歴史として語り伝えていくことが重要です。また、「まちの記憶」・「土地の記憶」を受け継いでいくことは、まちへの愛着や誇りを育てていくことにつながります。豊かな「まちの記憶」・「土地の記憶」を受け継ぎ、さらに成熟させていくことが、区民の誇りとなり、多くの人が繰り返し訪れたいくなるような、新宿のまちの創造へとつながっていきます。

### (1) まちの記憶

新宿のまちには、古代から近現代まで、紡がれてきた歴史的な蓄積として、多彩なまちの記憶があります。

◇時代時代の中での文化や人々の暮らしを伝える有形・無形の文化財（古代～近世）

◇これまでの文化財の概念に組み入れられていない近代以降の有形・無形の歴史遺産  
（淀橋浄水場跡、旧陸軍施設、戦前から続く店舗や工場等）

◇新宿のまちで生き、活躍した多くの文学者・芸術家等の活動・足跡  
（夏目漱石・小泉八雲・坪内逍遙・林芙美子・中村彝・佐伯祐三等）

◇地域に息づく印刷・染色文化（集積する印刷業・染の王国新宿）

◇まちの歴史を体感させる豊かな景観  
（真田濠・市谷濠などの江戸城外堀、旧軍施設と平和遺産等）

◇まちの歴史を伝える町・坂・道や社寺  
（百人町・笹笠町など江戸幕府の職制を名にとどめる町名、神楽坂・成子坂など江戸時代以来の名坂、芸者小道など横丁や小路、江戸以来の多数の社寺等）

◇新宿のまちに古くから伝わる伝説・伝承（山吹の里、高田馬場の決闘、四谷怪談等）

◇新宿駅の開業による盛り場の発展と新宿文化の開花  
（新宿大通りや神楽坂を中心とした映画・演劇・演芸などの文化や店舗・飲食店等）

◇戦後の復興と新たな盛り場の創出と現代の新宿文化  
（歌舞伎町の開発、新宿文化の復活とアングラ文化、サブカルチャーの勃興）

## (2) まちの記憶を伝える多彩な歴史文化施設

区内には、まちの記憶をつなげるための資料の収集活動・展示公開活動・周知啓発活動等を行っている多くの歴史文化施設があります。

坪内博士記念演劇博物館、會津八一記念博物館、国立印刷局お札と切手の博物館、東京理科大学近代科学資料館、東京消防庁消防博物館、宮城道雄記念館、民音音楽博物館、大隈講堂、新宿歴史博物館、林芙美子記念館 等

## (3) これまでの主な取り組み

- ◇ 文化財の保護・保存・調査等（区）
  - ・文化財保護法、新宿区文化財保護条例に基づく区内の文化財調査
  - ・指定、登録等による文化財の保護、記録保存、修復・整備等
  - ・新宿区文化財保護審議会による近代以降の有形・無形の歴史遺産の取り扱いの答申を踏まえた検討
- ◇ 新宿歴史博物館の運営（区・財団） 常設展示、企画展示、図書の発行等
- ◇ 新宿に息づく歴史・伝統・文化を伝えるミニ博物館の運営（区・財団）  
新宿ミニ博物館7館（染の里二葉苑、須賀神社、つまみかんざし博物館、熊野神社、太宗寺、目白学園遺跡、東京染ものがたり博物館）の運営
- ◇ まちの記憶を継承する情報の発信（区・財団）  
『新宿文化絵図』・『まち歩きガイド-文化発掘-』の発行等
- ◇ 文学者・画家等の活動・足跡の保存・整備・発信（区・財団）
  - ・夏目漱石生誕140年記念事業、漱石山房の復元に向けた取り組み
  - ・落合の文化資源の整備、林芙美子記念館の運営、佐伯祐三アトリエの整備・公開等
- ◇ 新宿ものづくりマイスター「技の名匠」の認定（区）  
染小紋、手描友禅、製本、シール印刷、紳士服製造、つまみかんざし製造の6名を平成20年度に認定
- ◇ 「景観形成ガイドライン」による景観に配慮したまちづくり（区）  
区内を72エリアに分け、景観形成の方針を定めた「景観形成ガイドライン」を策定し、景観に配慮したまちづくりを推進
- ◇ 文化財の説明板・坂道標柱の設置（区）  
文化財説明板106基、坂道標柱57坂103本を設置
- ◇ 新宿のお宝発掘（区）  
地域に眠る文化資源の発掘（平成17～20年度 投票数約500件）
- ◇ 文化財協力員、博物館ボランティア等による区民との協働（区・財団）
  - ・文化財協力員による区内の文化資源の掘り起こしや現況調査（48名登録）
  - ・常設展示、企画展示、史跡、林芙美子記念館の解説（65名登録）
- ◇ 文化財ウィーク、新宿まち歩きツアー等による歴史文化資源の紹介（区）
  - ・東京都文化財ウィーク（11月初旬に都内全域で文化財公開を集中して実施）に合せたまち歩きツアーの実施
  - ・新宿まち歩きツアー（歴史資源と産業資源を組み合わせた見学等のまち歩きを実施）
- ◇ ぐるっとパスによる博物館・美術館の連携（財団）



#### (4) これまでの主な取り組みに対する意見・課題等

- ◇ まちへの愛着と誇りが育まれるような様々な文化・歴史資源の掘り起こしと整備・活用  
まちの記憶とは、人と人のつながりの中で、現在に伝えられてきたものです。それを受け継ぎ、次世代にどう伝えていくか。まちへの誇りや愛着を育てる上で重要なテーマです。
- ◇ 新宿の持つ魅力、豊富な歴史・文化資源の情報の収集・整理・共有・発信  
新宿のまちに、歴史上の人物が多数暮らしていたということを感じることが、まちへの関心を高める上で大切なことです。また、現在の新宿の街なみやビルのネオンサイン等も、盛り場のひとつの情景として海外等でも取り上げられています。このようなテーマについても現代のまちの記憶として考えていく必要があるのではないのでしょうか。
- ◇ 区民が歴史・文化の保存・活用・継承の一翼を担うしくみづくりの構築  
「まちの記憶を継ぐ・活かす」、「まちへの愛着と誇りを育てる」ためには、区民自らが歴史や文化の保存・活用・継承の一翼を担っていくようなしくみづくりを構築していくことが必要です。
- ◇ 近代以降の有形・無形の歴史的遺産を文化財として取り扱う中で、その保存・活用・継承の考え方の構築  
文化財については、これまで主に近世までのものをその対象として、きめ細かく調査を行い、保存と活用に努めてきました。近代以降の歴史的遺産については、現用されているものや、規模や分量の大きいものが多く、調査や保護が進んでいませんでしたが、生産と廃棄のサイクルが早い現代においては、気がつくとも残っていないというような状況も懸念され、注意が必要です。また、まちの記憶を考える場合、戦災によりまちや市民が受けた被害も抜きにしては考えられません。正の遺産と負の遺産、両方があって文化は形成されるものだと思います。
- ◇ 新宿歴史博物館の展示スペース、収蔵能力の限界と豊富な実物遺産が体感できるしくみづくり  
新宿歴史博物館では、常設展示室が手狭な中で、四半期ごとに展示替えを行う特設コーナーの設置や、戦争関連の資料に直接触れることができるミュージアムツアーを実施するなど、新宿の歴史を知ってもらう様々な工夫を重ねていますが、展示スペースや収蔵能力には限界があります。一方新宿には、近世城郭の壮大な堀や土塁を体感できる国史跡江戸城外堀の真田濠や、防衛省の市ヶ谷記念館など平和の大切さを伝える多くの戦争関連遺跡が今なお残っています。このような文化資源の活用を促進するため、現地で実物を見たり感じたりできるようなしくみづくりが必要です。



#### (5) 新たな取り組みの提言

「まちの記憶を継ぐ・活かす」、「まちへの愛着と誇りを育てる」ための新たな取り組みとして、次の施策を進めていくことを懇談会として提言します。

## 1 豊富な歴史・文化資源の情報の収集・整理・発信を行うためのアーカイブづくりと情報のネットワーク化

古代から近現代まで紡がれてきた、新宿のまちの歴史的な蓄積や多彩なまちの記憶についての情報の収集・整理・発信を行うためのアーカイブづくりと情報のネットワーク化を進めていくことを提言します。

## 2 新宿のまち全体を博物館に見立てたフィールドミュージアムづくり

新宿のまちには近世城郭の壮大な堀や土塁を体感できる国史跡江戸城外堀の真田濠や、防衛省の市ヶ谷記念館など平和の大切さを伝える多くの戦争関連遺跡が今なお残っています。また、由緒ある町名や現在も地域に親しまれている坂道や横丁の名称等、豊かな土地の記憶・まちの記憶があります。そのため、これらの豊富な実物遺産が体感できるようなくみづくりを進めていくことが必要です。縦軸として時間の流れ、横軸として区内の各地域をつなげ、新宿のまち全体を博物館に見立てたフィールドミュージアムづくりを進めていくことを提言します。

## 3 豊かな歴史・自然に配慮した景観形成によるまちづくり

良好な景観は、先人たちから受け継いだ景観を守り育てながら、区民共通の資産として次代に受け継いでいくことで形成されていきます。景観形成ガイドラインを踏まえつつ、区民、企業、新宿区等、各主体が連携・協力して、文化財や文化遺産等、豊かな歴史・自然を活かした景観の形成に取り組み、個性的でにぎわいのあるまちづくりを進めていくことを提言します。

## 4 募金・寄付金等による国民的文豪等の活動の足跡の保存・整備・ネットワーク化

新宿のまちは国民的文豪である夏目漱石をはじめとして、多くの文学者や芸術家等の足跡が残るまちです。こうした文学者等の足跡や活動の記録を保存・整備・ネットワーク化するにあたっては、募金・寄付金等のしくみを構築したり、運営ボランティアの育成を行ったりするなど、多くの人や団体が参画できるようなくみづくりを進めていくことを提言します。

## 5 新宿のまちを再発見するシティガイド、まち歩きツアーの実施・充実

文化財ウィークや新宿まち歩きツアー、歴史文化探訪等の事業により、区内の文化・歴史・産業資源等を紹介していますが、こうしたまち歩きツアーを実施・充実させ、新宿のまちの愛好者を増やすとともに、平成21年（2009）7月に発足した「新宿まち歩きガイド運営協議会」を充実させ、自らのまちをガイドできる人材の育成やまち歩きのコース開発を進めていくことを提言します。

## 6 文化芸術団体・学校・地域をつなぐ文化面からのコーディネートの実施・強化

まちへの誇りと愛着を育て、次の世代に豊かな新宿のまちの記憶を継承していくためには、多くの人や団体が新宿のまちに目を向け、関心を高めてもらうことが必要です。そのため、文化芸術団体・学校・地域をつなぐ文化面からのコーディネートを実施・強化し、より多くの人や団体が新宿のまちに目を向けるようなくみづくりを進めていくことを提言します。

## (6) 各主体への期待・役割

「まちの記憶を継ぐ・活かす」、「まちへの愛着と誇りを育てる」ためには、文化芸術に関わるそれぞれの主体が自覚と責任を持ち、次のような役割を担っていくことが大切です。

◇ 区民等

埋もれた「記憶」の発掘、歴史や伝統文化の保存理解・継承、ボランティア活動等を通してのまちの「記憶」の理解・継承の促進の担い手、募金・寄付金等によるまちの歴史の保存・整備、文化芸術団体・施設・地域等との積極的なつながり

◇ 文化芸術団体

埋もれた「記憶」の発掘、歴史や伝統文化の保存理解・継承、NPO活動等を通してのまちの「記憶」の理解・継承の促進の担い手、募金・寄付金等によるまちの歴史の保存・整備、区民・学校・地域等との積極的なつながり

◇ 学校

埋もれた「記憶」の発掘、歴史や伝統文化の保存理解・継承、学校教育を通してのまちの「記憶」の理解・継承の促進、文化芸術団体・施設・地域等との積極的なつながり

◇ 企業

埋もれた「記憶」の発掘、歴史や伝統文化の保存理解・継承、募金・寄付金等によるまちの歴史の保存・整備、区民・文化芸術団体・地域等との積極的なつながり

◇ 新宿区

埋もれた「記憶」発掘と働きかけ、歴史や伝統文化の保存理解・継承とその支援、区民・文化芸術団体・学校・施設・地域をつなぐ文化面からのコーディネート

◇ 新宿文化・国際交流財団、新宿区生涯学習財団（以下「財団」という。）

埋もれた「記憶」発掘と働きかけ、歴史や伝統文化の保存理解・継承とその支援、区民・文化芸術団体・学校・施設・地域をつなぐ文化面からのコーディネート



新宿歴史博物館の常設展示



ミニ博物館「染の里二葉苑」



◀まち歩きツアー

坂道標柱▶



漱石公園と情報発信施設「道草庵」



林芙美子記念館



文化財の調査

### 3 「子どもの生きる力と豊かな心を育む」

文化芸術は、物事に感動する心や他者への思いやりの心を育てる等、子どもたちの感性を磨き、表現力を高め、創造力を伸ばす力をもっています。また、自分の思いを他者へ伝える力や社会の中で生きていく上での基礎的な力を培うことができます。一人ひとりの子どもの豊かな人間性を醸成し、「生きる力と豊かな心」を育む上で、文化芸術には、大変、大きな役割が期待されています。

そして、文化芸術は一時代や一過性のものではなく、次の世代へと継承していくものです。次代の文化芸術の担い手である子どもたちが、様々な文化芸術を鑑賞し、体験することは、これから文化芸術を振興していく上で、大きな意味を持っています。

#### (1) 子どもと子どもを取り巻く文化芸術環境

子どもを取り巻く家族の構造には大きな変化がみられます。昭和40年代半ばには年間6,000人以上であった新宿区の年間出生数（外国人を除く）は、平成3年（1991）には2,000人を切り、微増・横ばいの傾向はあるものの、今日まで、その傾向は続いています。また、平成10年には、老年人口16.4%、年少人口9.5%であったものが、平成21年（2009）にはそれぞれ18.6%、8.4%と少子高齢化は進行しています。そして、世帯の構成については、三世代家族は減少し、ひとり親世帯が増加している状況があります。

また、平成21年3月にまとめられた「次世代育成支援に関する調査報告書」では、中学生の携帯電話所有率は68.9%、インターネット利用率は76.8%という数字を示しています。

このようなことから、家族の中で文化を継承しづらくなっている状況や、子ども同士の関わりの中で育まれてきたコミュニケーションや表現力等、次代を担う子どもの生きる力と豊かな心を育む土台となるものが変化してきている状況がうかがえます。

子どもを取り巻く文化芸術環境として、区内の幼稚園、保育園、子ども園、小・中学校、特別支援学校、児童館、こども図書館等、各施設・教育機関において、様々な文化芸術鑑賞や体験の機会が提供されています。

また、新宿のまちには、東京おもちゃ美術館や消防博物館のような「見て」・「ふれて」・「体験」することができる文化芸術施設があるほか、「(2) これまでの主な取り組み」に示すように、様々な文化芸術にふれることができる取り組みが既に行われています。



総合的な学習の時間を利用した日本の伝統文化体験



鑑賞教室 新宿区・わらび座  
共同制作ミュージカル「火の鳥」



新宿歴史博物館の社会科見学  
受入れ（解説ボランティアと）



子ども図書館



文化体験プログラム  
（日本舞踊・西川流）



ファミリー音楽館  
ワークショップ（東京フィル）



新宿ワールドキッズ（大久保小学校）

## (2) これまでの主な取り組み

- ◇ 乳幼児を対象とした文化芸術とのふれあい
  - ・ 3～4か月健診、3歳児健診での絵本の読み聞かせ・配布（区）
  - ・ 乳幼児コンサート（区・財団）
- ◇ 学校教育の場での文化芸術とのふれあい（学校）
  - ・ 総合的な学習の時間を活用した日本の伝統文化（和太鼓・箏・友禅・阿波踊り等）とのふれあい
  - ・ 鑑賞教室（小5演劇、小6・中2音楽）の実施
  - ・ 「小学校音楽のつどい」、「中学校生徒演奏会」等での楽器とのふれあい、演奏の実施等
- ◇ 地域・文化芸術団体等と学校・児童館等との関わり
  - ・ 学校・児童館等への出前コンサートの実施（財団・学校・区）
  - ・ 新宿歴史博物館での社会科見学等の受入れ、学校への出張授業、教材の貸出し、副読本の作成等（財団・学校・区）
  - ・ 美術館と連携した美術鑑賞教育（東郷青児美術館との小中学生の美術鑑賞教育支援事業、東京オペラシティアートミュージアム）（学校・団体・区）
- ◇ 参加体験・鑑賞の場の確保
  - ・ 文化体験プログラム（団体・区）
  - ・ 芸術体験ひろば（団体・区）
  - ・ ファミリー音楽館（楽器体験・音楽教室・コンサート）（団体・区）
  - ・ ユースミュージカル講座（財団）
  - ・ レガス子どもクラブ（昔遊び・伝統芸能・能楽・小鼓）（財団）
  - ・ プラネタリウムの運営（財団）
  - ・ 歴史博物館「夏休み子ども講座」の実施（区・財団・団体）
- ◇ 読書環境の確保・読書活動の推進
  - ・ 子ども図書館の運営、児童図書の実施（学校・区）
  - ・ 学校図書館への司書派遣、朝読書の実施等（学校・区）
- ◇ 多文化とのふれあい
  - ・ 友好都市ドイツ・ベルリン市ミッテ区との交流・派遣（区・財団）
  - ・ 国際理解講座の実施（区・財団）
  - ・ 新宿ワールドキッズの開催（団体・財団・区）
- ◇ 後援・共催による文化芸術活動への支援（団体・区）
  - ・ キッズ伝統芸能体験（芸能花伝舎）、NHK東京児童合唱団第37回定期公演、子どもたちと芸術家の出会う街2009等 20年度6件 19年度5件

## (3) これまでの主な取り組みに対する意見・課題等

- ◇ 体験することの素晴しさ・大切さと、そのためのシステムや基盤づくり  
本物を見ること、実際の場所に行ってみること、檜舞台に立つことの素晴しさを子どもの「生きる力」や学力につなげる工夫が大切です。また、保護者の文化芸術への関心の高さが子どもの文化芸術体験の格差につながることがあります。そのため、子どもたちが文化芸術に接するためのシステムや基盤づくりを進めていくことが大切です。

#### ◇ 次世代育成の視点からの持続的取り組み

子どもの創造力や表現力を育てることは、子どもたち自身の豊かな力を育むとともに、地域の力、ひいては国の力になります。一過性のものではなく、次世代育成の視点から、長期的な実効性と品質の確保、継続性・持続性を持ったしくみとして、子どもたちと文化芸術の振興との関わりを捉えていくことが大切です。

#### ◇ まちへの愛着を育む

子どもたちが新宿のまちに愛着を持てることが大切です。子どもたちと地域との関わりが希薄になりつつある中で、地域に埋もれている新宿のまちの文化芸術資源を子どもたちが体験したり、学べたりするしくみづくりや、子どもの環境に深い関心のある大人を増やしていくことが大切です。

#### ◇ 子どもを取り巻く文化芸術団体・施設等のつながり

文化芸術団体等に対するインタビュー調査やアンケート調査では、「子どもを中心に団体活動を広げていきたい。もっとつながりたい。施設を活用してもらいたい。」といった意見が数多くあります。また、「子どもたちを前に演奏活動を行いたいが、きっかけがない。」という意見もみられます。子どもを取り巻く文化芸術団体・施設等のつながり、ネットワーク化を進めていくことが必要です。

#### ◇ 学校の取り組みへの期待と難しさ

子どもたちと文化芸術との関わりを捉えた場合、学校の取り組みに対する期待は非常に大きいものがあります。学習指導要領の改訂により、文化や伝統理解教育への取り組みが求められる一方、確かな学力向上への保護者の期待等からは、増加した授業時間数のすべてを文化芸術に触れる機会へ振り向けることは難しい状況にあります。良いものをすべてではなく、学校ごとに創意工夫を行い、精選しながら、取り組んでいる状況があります。すべてを学校に対して期待しても難しい状況がある中で、保護者の「共感・共有」を得るとともに、環境の整えにくい学校に対しては、区民、文化芸術団体、企業が支援していくことが大切です。

## (4) 新たな取り組みの提言

「子どもの生きる力と豊かな心を育む」ための新たな取り組みとして、次の施策を進めていくことを懇談会として提言します。

### 1 子どもたちの育ちにあわせた文化体験プログラム等の参加体験の場と文化芸術鑑賞機会の確保、多文化とのふれあいの場の確保

本物の文化芸術にふれる機会は、子どもたちの文化芸術に対する関心を高め、創造力や感受性を養います。そのため、子どもたちの育ちにあわせた参加・体験・鑑賞の場の確保や、多文化とのふれあいの場づくりを進めていくことを提言します。

### 2 学校教育における区内美術館や能楽堂等を活用した美術鑑賞、伝統文化理解教育等の推進

新宿区教育ビジョンでは、「児童生徒が本物の美術作品に触れる機会を増やすため、区内美術館を活用した美術鑑賞を実施します。また、区内能楽堂での能の鑑賞、和楽器演奏、伝統工芸、太鼓演奏、地域の踊り、福祉施設等多様な地域資源を活用した取り組みを充実します」としています。こうした取り組みを着実に進めていくべきであると提言します。

### 3 文化芸術団体・学校・施設・地域をつなぐ文化面からのコーディネートの実施

文化芸術団体に対するインタビュー調査やアンケート調査では、「子どもを中心に団体活動を広げていきたい」等、子どもたちとのつながりを望む文化芸術団体の意見が数多くみられます。

また、一方、学校の取り組みへの期待と難しさがある中では、文化芸術団体・学校・施設・地域をつなぐ文化面からのコーディネートを充実・強化していくことが必要です。地域で活動するスクールコーディネーターや学校と文化芸術団体等をつなぐ、重層的なしくみの中で、文化面からのコーディネートを実施していくことを提言します。

### 4 まちへの愛着を育む子ども向け「新宿学」「新宿探検隊」

新宿歴史博物館の取り組み等をさらに進め、子どもたちの新宿のまちへの愛着を育む子ども向け「新宿学」や、子どもたちに自らのまちを知ってもらう「新宿探検隊」等の取り組みを進めていくことを提言します。



## (5) 各主体への期待・役割

「子どもの生きる力と豊かな心を育む」ためには、文化芸術に関わるそれぞれの主体が自覚と責任を持ち、次の役割を担っていくことが大切です。

#### ◇区民等

子どもの文化芸術体験・鑑賞への理解と関心、参加機会の確保  
(子どもの育ちにおける文化芸術体験・鑑賞への必要性に対する理解と関心を保ち、高める。子どもの文化芸術体験・鑑賞への参加の機会を確保)

#### ◇文化芸術団体

文化芸術団体の活動・施設の運営を通して、子どもと保護者等への文化芸術体験・鑑賞の場の提供、まちへの愛着を育むような子どもと保護者への働きかけ

#### ◇学校

学校教育における文化芸術に関する体験学習・鑑賞教室の実施、学校教育ビジョンに掲げる伝統文化理解教育等の推進、文化芸術団体・施設等との積極的なつながり、まちへの愛着を育むような子どもと保護者等への働きかけ

#### ◇企業

企業活動・メセナ活動等を通しての子どもと保護者等への文化芸術体験・鑑賞の場の提供、文化芸術活動団体・施設等の活動支援

#### ◇新宿区

子どもと保護者等への文化芸術体験・鑑賞の場の提供、文化芸術団体・学校・施設・地域をつなぐ文化面からのコーディネート、まちへの愛着を育むような子どもと保護者への働きかけ

#### ◇財団

子どもと保護者等への文化芸術体験・鑑賞の場の提供、文化芸術団体・学校・施設・地域をつなぐ文化面からのコーディネート、まちへの愛着を育むような子どもと保護者への働きかけ

## 4 「新宿からの文化芸術を創る・発信する」、「民（みん）の力でつくられたまちを支える」、「新宿のまちに人を惹きつける」、「新宿力のふたをあける（発揮する）」、「多様な人と人とをつなげる」

それぞれの取り組みの方向性は非常に密接なつながりを持つものです。そして、その中心となるのは、新宿のまちに生き、活動し、集う人々です。

宿場・盛り場としての歴史や近現代においても、いつも時代の先端を走り、文化を創り、発信してきたことが新宿のまちの特色です。

文化を創り、享受し、また新たな文化を創造していく、そのためには、新宿のまちに生き、活動し、集う、様々な人々や文化芸術団体をつなげ、創造力を引き出していくことが大切です。

また、民（みん）の力や区の施策として、これまで数多くの取り組みが行われていますが、その力を結集することにより、新宿駅の乗降客だけでも一日平均約352万人ともいわれる新宿のまちを訪れる多くの人々に新宿からの文化芸術を伝えていく。そうしたアプローチを大切にしながら、今後の取り組みについて、考えていく必要があります。

そのためには、今まで、行ってきたが、知られていなかった様々な文化芸術の主体の活動を「顕在化」し、はっきりと目に見える形で表現していくということが、とても大切です。

そして、多くの人と人とをつなげていくための情報の発信やネットワークの形成、活動の場づくりを進めていく必要があります。

そうした取り組みを重ねていくことが、新たな活動を創り出し、創り出された活動の連鎖が新宿からの新しい文化芸術を創造し、発信していくことにつながると考えます。

### (1) 新宿のまちを彩る文化芸術活動の担い手と多彩な文化芸術施設

「I 新宿のまちの特性と文化芸術資源」に記載のとおり、新宿のまちには多くの文化芸術活動の担い手と多彩な文化芸術施設があります。その代表的なものについては、以下のとおりです。

#### ◇ 区民団体等

新宿文化センター登録団体、生涯学習館登録団体等 約700団体

#### ◇ 多彩な名誉区民の方々

#### ◇ 区内の文化芸術団体、NPO法人等 約240団体

（（社）日本芸能実演家団体協議会調査より）

#### ◇ 企業活動・メセナ活動

吉本興業グループ東京本部

大日本印刷株式会社・株式会社損保ジャパン・株式会社新潮社等のメセナ活動

#### ◇ 多彩なイベントを生み出す実行委員会

新宿芸術天国、新宿アートインフィニティ、新宿トラッドジャズフェスティバル等の各実行委員会組織

#### ◇ 文化芸術関係の学校・企業・団体等の進出とアニメ等の地域資源

東京モード学園、宝塚造形芸術大学、吉本興業グループ東京本部

芸能花伝舎、東京おもちゃ美術館、アンパンマンショップ、手塚プロダクション等

## (2) これまでの主な取り組み

- ◇ 新宿のまちを劇場に見立てた空間活用とその支援（区）  
新宿芸術天国、新宿アートインフィニティ、新宿文化ロード、神楽坂まちとびフェスタ
- ◇ 文化芸術の発信の場としての公共的な空間の活用（区）  
歌舞伎町シネシティ広場やシアターパークとしての区立大久保公園の活用、文化ロードイベントでの道路や建物のロビー空間の活用等
- ◇ 発信・発表の場、機会の提供（財団・区）
  - ・ プロ、アマチュアバンドが一体となったジャズフェスティバル、新宿を活動拠点とする音楽関係団体等による区民芸術祭（新宿ステージフェスタ）等の実施
  - ・ 活動内容や作品に合わせた様々な発信・発表の場、機会の提供（新宿文化センター大・小ホール・展示室、ギャラリーオーガード「みるっく」等での展示等）
- ◇ 民（みんな）の力を支える取り組み（財団・区）
  - ・ 広報しんじゅく「区民のひろば」、区民活動支援サイト「キラミラネット」等による活動情報の紹介・発信
  - ・ 年間40件を上回る後援・共催の実施
  - ・ 協働事業提案（500万円を限度として、NPO団体等と区が協働して事業を実施）や協働推進基金によるNPO団体等への事業助成
  - ・ 新宿文化センター、生涯学習館の登録団体の優先受付・利用料減免
- ◇ 日本芸能実演家団体協議会（芸団協）、東京フィルハーモニー交響楽団、損保ジャパン東郷青児美術館等の文化芸術団体との連携・事業提携（財団・区）
- ◇ 大学・専門学校との連携（財団・区）
  - ・ 早稲田大学（文化財・博物館関係の連携）、学習院女子大学（「オノ・ヨーコ 平和の鐘展」）、東放学園（イメージアップビデオ、映画フォーラム）等
- ◇ 学校統廃合により閉校した校舎を活用した創造・交流の拠点づくり（区）
  - ・ 芸能花伝舎（旧淀橋第三小学校）芸能実演家・団体の拠点、練習・活動の場
  - ・ 吉本興業グループ東京本部（旧四谷第五小学校）大衆文化企画制作の拠点・エンターテインメント産業の集積の拠点
  - ・ 四谷ひろば・東京おもちゃ美術館・CCAA（市民の芸術活動推進委員会）（旧四谷第四小）区民の文化芸術活動の拠点、NPOによる美術館の運営
- ◇ 文化財協力員や博物館ガイドボランティア、美術館ボランティア等の文化芸術ボランティアの育成・活動（財団・区）
- ◇ コーディネートの実践（財団・区）
  - ・ アーティストと活動の場を結びつけるアーティストバンク・出前コンサート
  - ・ 文化芸術団体、財団、企業等を結びつける実行委員会結成の働きかけ
- ◇ 多文化とのふれあい・つながり（財団・区）
  - ・ しんじゅく多文化共生プラザ、国際理解講座、後援・共催による文化の紹介・交流

### (3) これまでの主な取り組みに対する意見・課題等

#### ◇ 新宿のまちに元気がなくなった。埋没し始めている。マーケットやディスプレイ効果を意識した取り組みが必要

いつの時代も先端を走り、文化を発信してきたことが新宿のまちの特色でしたが、文化の発信という視点で新宿のまちを捉えた場合、新宿のまちに元気がなくなってきているとの意見があります。マーケットや新宿のまちの強みであるディスプレイ効果を意識した取り組みが必要です。

#### ◇ 劇場やホール等の閉鎖による、活動・発表の場、練習・稽古の場の不足

平成20年(2008)12月に閉鎖したコマ劇場や平成22年(2010)3月に閉鎖が予定される東京厚生年金会館をはじめとして多くの劇場・ホールが閉鎖しています。

文化芸術団体に対するインタビュー調査等からは活動・発表の場、練習・稽古の場の不足はかなり深刻であり、劇団等の活動拠点が他区に移っているという意見があります。また、公共施設の利用にあたり、利用要件の緩和を求める意見もあります。

#### ◇ 文化芸術団体と区民等とをつなぐ情報の発信、年代やターゲットを考慮した情報の発信

文化芸術団体に対するインタビュー調査等からは「プロモーションに区の力を貸してほしい。広報活動における区と文化施設のタイアップを図りたい。区内の色々な公演情報を発信するサイト等、地元へ情報を届ける環境を整備してほしい。」との意見があります。また、年代やターゲットを考慮した情報発信の方法や、事前登録しておき、関心のある文化芸術情報が配信されるシステムづくりを行う等の意見もあります。

#### ◇ 新宿力の顕在化と発揮

区民が享受者としてだけでなく、表現者として、また愛好家や支援者として、歴史や文化芸術の一翼を担うことができるしくみが必要です。また、将来の文化芸術を担う内外の若手アーティストやスタッフが集い、交流し、創作する環境の整備が必要です。

#### ◇ 文化芸術活動家・団体・若者等の力を引き出す、区民とつなぐ

多くの文化芸術活動家や団体・施設等が、区民にとって身近なものとなりきれておらず、区民や団体との距離感があります。また、活気あふれる多くの若者が集うまちとして、若者のアイデアや活力をまちの魅力を高めるために活かすしくみづくりが必要です。

「まちの記憶を継ぐ・活かす」、「子どもの生きる力と豊かな心を育む」、「新たな文化の創造」、「民(みんな)の力でつくられたまちを支える」等、いずれの取り組みを進めていく上でも、文化芸術に関わる多くの区民や団体、地域・学校・企業などをつなぎ、それぞれの主体の持つ力を引き出していくことが大切です。

#### ◇ ネットワークづくりへの期待と人材の確保

美術館めぐりや各劇場から作品を出し合う劇場のネットワーク化、区内の文化芸術施設のマップづくりやスタンプラリー等、様々な活動を顕在化し、はっきりと見えるかたちにしていくことが大切です。また、持続的な取り組みとしていくために、文化芸術に関する専門的な人材の確保や体制づくりを進めていくことが必要です。

#### (4) 新たな取り組みの提言

「新宿からの文化芸術を創る・発信する」、「民（みんな）の力でつくられたまちを支える」、「新宿のまちに人を惹きつける」、「新宿力のふたをあける（発揮する）」、「多様な人と人をつなげる」ための新たな取り組みとして、次の施策を進めていくことを懇談会として提言します。

### I 創造・発信・空間活用

#### 1 新宿のまちを劇場に見立てた街角や空間のプロデュース、ディスプレイ効果を意識した公共空間の活用

都市の野外劇場であり歌舞伎町の情報発信拠点としての位置付けを持つ歌舞伎町のシネシティ広場や、文化創造発信の実験空間としてのシアターパークへと整備する大久保公園での活動を展開していくほか、駅前、ひろば、ロビー、壁面等、多くの人の目にふれる公共空間等を活用し、創作・発表の場として、積極的に提供する取り組みを進めていくことを提言します。

#### 2 文化ウィーク（月間）の設定や新宿のまちぐるみによる文化芸術の発信（文化芸術団体・文化施設・学校・企業・文化人・芸術家等が協力した地域からの文化芸術の創造・発信）

多くの文化芸術団体等が活発な活動を行っている新宿のまちですが、新宿からの文化芸術を強力に発信していくためには、地域の文化芸術団体、文化施設との連携をさらに進め、四季折々のイベントや、新宿のまち全体を捉えた発信をしていくことを提言します。

#### 3 新宿のまちや地域性、まちの記憶をテーマとしたプロ・アマ連携による舞台芸術等の創作・実演

日本芸能実演家団体協議会（芸団協）をはじめとして、多くの文化芸術団体がある中で、プロ・アマ連携により、新宿のまちや地域性、まちの記憶を掘り起こした舞台芸術等の創作・実演を行うことを提言します。

### II 情報の提供・コーディネート・ネットワーク

#### 1 「まちの記憶を継ぐ・活かす」、「子どもの生きる力と豊かな心を育む」、「文化芸術の創造・発信」等の場面での文化芸術団体、施設、地域をつなぐ文化芸術面からのコーディネートの実施、文化芸術ボランティアの育成とネットワーク化

「まちの記憶を継ぐ・活かす」、「子どもの生きる力と豊かな心を育む」、「新たな文化の創造・発信」、「民（みんな）の力でつくられたまちを支える」等、いずれの取り組みを進めていく上でも、文化芸術に関わる多くの区民や団体・学校・企業などをつなぎ、それぞれの主体の持つ力を引き出していくことが大切です。

そのためのコーディネートを行う常設的な機関を設置し、専門的な人材の育成や登用を図り、情報の発信、活動の支援、文化芸術ボランティアの育成とネットワーク化、各主体との連携による様々な事業展開を進めていくことを提言します。

特に、コーディネートやネットワーク化にあたっては、活動に必要な場・資金・情報等、それぞれの主体のニーズを積極的に掘り起こし、これまでつながりを持つことの少なかった区民や団体・学校・企業等、それぞれの主体を積極的につなげていくことを提言します。

#### 2 大学・専修学校等の力を活かした文化交流・地域連携事業の実施

新宿区内には、早稲田大学、宝塚造形芸術大学、学習院女子大学をはじめとして、数多くの大学・専修学校等があり、歴史的建造物の保存や新宿文化ロード等のイベント事業等で、区や財団と連携した取り組みを進めています。大学・専修学校等の持つ特性を活かした文化

交流や地域連携事業をさらに充実させていくことを提言します。

### 3 企業との連携による地域連携事業の実施

社団法人企業メセナ協議会に参加している区内企業をはじめとして、企業理念・企業目的に沿うかたちでの社会貢献について、実践したり、関心を持っている企業は少なくありません。こうした企業への働きかけを通して、企業の文化芸術振興への関心を高めていくことが必要であり、企業の文化芸術の創造の場への参画や地域貢献が促進されるしくみづくりや、企業と新宿のまちがつながるようなネットワーク化を進めていくことを提言します。

### 4 韓国文化院、国際交流基金等との連携による文化交流・地域連携事業の実施

新宿区内には、韓国文化院、独立行政法人国際交流基金といった国際機関が設置されています。また、区内にある大学・専修学校等には、多くの留学生がいます。こうした国際機関や留学生等の力を引き出し、外国人の多い地域との連携等も模索しつつ、地域の中での文化交流を進めていくことを提言します。

### 5 プロとアマをつなぐ芸術家・芸能実演団体等によるアマチュア活動の指導の推進

文化芸術団体等へのインタビュー調査の結果を踏まえ、プロとアマをつなぐ芸術家・芸能実演団体等によるアマチュア活動の指導を推進するとともに、若手アーティスト等の創作・発表の場づくり等を進めていくことを提言します。

## III 活動の支援等

### 1 区民や文化芸術団体の練習・発表の場としての劇場やホール空間等の確保

文化芸術団体等へのインタビュー調査では、劇場が次々と閉鎖される中で、演劇等の舞台芸術団体を中心に、公立ホールの使用条件の緩和等の意見がありました。例えば、活動の内容やその広がりなど効果を評価して、区立ホールの長期使用を認める等、ホールの使用条件の緩和等を検討していくことが必要です。また、空き店舗・空き倉庫等の空間活用を図る等、練習・発表の場を確保していくことを提言します。

### 2 区民や文化芸術団体等の活動支援や活動基盤の強化のための新たな仕組みづくり

新宿のまちには区民団体等をはじめとして、文化芸術団体やNPO法人、実行委員会等、まちを彩る多彩な文化芸術団体が様々な分野の文化芸術活動を活発に行っていますが、こうした文化芸術団体へのアンケートやインタビュー調査等では、多くの団体から、持続的に活動・発表・発信の場を求める意見や、団体の運営に関する意見が寄せられています。

文化芸術団体の活動の支援の方法の一つとして補助金という手法もありますが、多岐にわたる文化芸術活動を行なう個別の団体に対する運営助成という新たなしくみを創設するよりは、多くの団体の活動がより活性化される活動場所の確保等、共通の基盤整備や自立的な活動が行える支援のしくみづくりを行っていくことが望ましいと考えます。

そのため、持続的・継続的に文化芸術団体の活動を支援する方法として、例えば、文化芸術振興基金を設置・活用することにより、一定期間、劇場や空間を借り上げて活動・発表・発信の場を確保したり、活動基盤の強化のための相談や融資等、支援のしくみの創設を検討していくことを提言します。

### 3 文化芸術活動・文化的取り組みの顕彰

新宿のまちの文化芸術の振興に寄与した、個人・文化芸術団体・企業等の文化芸術活動や、文化的取り組みを顕彰するしくみを創設することを提言します。

## (5) 各主体への期待・役割

「新宿からの文化芸術を創る・発信する」、「民（みん）の力でつくられたまちを支える」、「新宿のまちに人を惹きつける」、「新宿力のふたをあける（発揮する）」、「多様な人と人をつなげる」ためには、文化芸術に関わるそれぞれの主体が自覚と責任を持ち、次の役割を担っていくことが大切です。

### ◇ 区民等

文化芸術の鑑賞・創作・表現活動への主体的な参加、自主的な文化芸術活動の展開、文化芸術団体・施設等との積極的なつながり、まちへの愛着を育む地域住民への働きかけ

### ◇ 文化芸術団体

自主的な文化芸術活動の展開、新宿発の特色ある文化芸術の創造、文化芸術に関する活動の支援と情報の発信、文化芸術体験・鑑賞の場の提供、学校・施設・地域との積極的な連携

### ◇ 学校

自主的な文化芸術活動の展開、学校教育における文化芸術に関する体験教育・鑑賞教育、伝統文化理解教育等の推進、文化芸術団体・施設・地域などとの積極的なつながり、まちへの愛着を育む子どもへの働きかけ

### ◇ 企業

自主的な文化芸術活動の展開、新宿発の特色ある文化芸術の創造、文化芸術に関する活動の支援と情報の発信、文化芸術体験・鑑賞の場の提供

### ◇ 新宿区

新宿発の特色ある文化芸術の創造の支援、文化芸術に関する活動の支援と情報の発信、文化芸術体験・鑑賞の場の提供、区民・文化芸術団体・学校・施設・地域をつなぐ文化面からのコーディネート

### ◇ 財団

新宿発の特色ある文化芸術の創造、文化芸術に関する活動の支援と情報の発信、文化芸術体験・鑑賞の場の提供、区民・文化芸術団体・学校・施設・地域をつなぐ文化面からのコーディネート



新宿文化ロード



新宿芸術天国



▲ギャラリーオーガード「みるつく」  
▼神楽坂 まちとびフェスタ



新宿アートインフィニティ



新宿 春の楽しいジャズ祭り



(社)日本芸能実演家団体協議会との連携「芸術体験ひろば」



東京フィルハーモニー交響楽団との連携 ファミリー音楽館「メインコンサート」



損保ジャパン東郷青児美術館との連携  
対話型鑑賞会、美術鑑賞ボランティア



東京おもちゃ美術館(旧四谷第四小学校)



多文化共生プラザ